

夏石番矢句集『ブラックカード』（砂子屋書房、2012年10月）について

About “Black Card” (Sunagoya, Tokyo, October 2012) by Ban'ya

Natsuishi

石倉秀樹

Hideki Ishikura

夏石番矢さんの最新句集『ブラックカード』の感想を述べます。夏石番矢という俳人について吉本隆明は、その著『詩の力』のなかで、「一足とびに西欧の現代詩と同じ次元の表現をしたいというモチーフを持っている」といい、「これまでの前衛俳句が試みてきたことを全部やってみようとしている」ともいっています。そのとおりだと思います。しかし、もう少しいえば、夏石番矢は、俳句にできることは全部やる、そういう俳人だと私には思えます。これは、『ブラックカード』を読んで最初に思ったことです。

雪降るや神々死者の数知らず

『津波と原子炉』

この句はいわゆる有季定型。

生は死か死は生か水漏れの音

『雲から雲へ』

この句は五五七だが、十七字。

また、何をどう詠むかでも、吉本の言うように、「西欧の現代詩と同じ次元」「前衛俳句が試みてきたこと」ばかりではありません。『雲から雲へ』は父君を看取っての吟詠ですが、父と子という関係のなかで生まれる個人的な叙情を詠む姿勢には、前衛かどうかを不問に付す素直さがあります。

父の目は祖父の目その奥のさざなみ

『雲から雲へ』

母の遺体の前で崩れる亡き父の靴

『泥水』

定型俳句にこだわる俳人はよく、字数にあわせるため「てにをは」や活用型を操作し、瑣末な推敲をします。夏石番矢にも「てにをは」や活用型の操作はあり、

人々騒ぎ空き地の空き缶から腐臭

『魚臭い言葉』

この句、人々騒ぐ空き地の空き缶から腐臭、と詠んだのであれば凡句。終止型「騒ぐ」ではなく、連用型「騒ぎ」としただけで、因果関係が逆転し、凡句が秀句になっています。

しかし、夏石番矢の本領は、俳句にできることは全部やる、です。俳句で神話、黙示録を詠む、ということもそのひとつ。

泥沼へミイラを落とせば折れる親指

『魚臭い言葉』

神の複数を人類の単数が汚染する

『無限崩壊』

宙吊りの女煙を吐いて父を呼ぶ

『オケアノスの部屋』

「父」は、私の父なのか、宙吊りの女の父なのか、父なる神なのか。その解釈次第で異なる物語が浮かびあがってきます。神話、黙示録は、解釈したい、という欲求を喚起させつつこれが正解、という解釈を許しません。そこで、「夏石さんの俳句は難解」、ということにもなりますが、解釈ができるかできないか、前衛か伝統

か、ということだけが俳句ではありません。

|                        |           |
|------------------------|-----------|
| このゆるやかな大敗北へ春の雪         | 『津波と原子炉』  |
| 杉花粉と放射能飛ぶ風の街角          | 『津波と原子炉』  |
| 原子炉を見下ろす富士は赤裸          | 『ブラックカード』 |
| ジャックは地下へ降りるバイオリンの箱の底から | 『ブラックカード』 |

これらの句は、文明の敗北、人間の愚かしさを詠んで豪放。豪放にして繊細。時代への鋭い目は、夏石俳句の優れた特徴のひとつでもあります。批評ということも、俳句にできることのひとつです。

|                          |           |
|--------------------------|-----------|
| 暖房完備の全教室にプラスチック人參ぶら下がる   | 『泥水』      |
| 指令をほしいままに発する脂肪のかたまりの濡れた唇 | 『ブラックカード』 |

この二句も、批評の句、であるでしょう。この二句は、構造として俳句でありながら、二十九音。ここでは、短歌ほどの長さであっても俳句が詠める、といことにも注目しておくべきでしょう。

そして、『鳥』『海の世界』はラフに言えば寄物陳思の楽しみ。これも俳句にできることのひとつです。

|                  |        |
|------------------|--------|
| 鴉と一緒に夕日は叫んでみたくなる | 『鳥』    |
| 蛙鮫鰐飛び入る穴なく海底砂漠   | 『海の世界』 |
| ニコチンの闇の鮫鰐は幽霊ではない | 『海の世界』 |

『海の世界』では鮫鰐が例外的に二回詠まれています。私はブログで獅子鮫鰐、という詩号を用いています。そこで、個人的な見解で大変恐縮ですが、とりわけこの二句に魅かれています。

以上、『ブラックカード』を完食できず、俳句にできることのつまみ食いになりましたが、私の感想です。